

畑作・野菜・花き生産情報 第2号（要約版）

令和6年5月20日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 小麦の生育は大幅に早まっています。赤かび病の適期防除に努めよう！
- ◎ 大豆のは種に向けて、排水対策・土壌酸度矯正・砕土を徹底しよう！
- ◎ 野菜の生育は順調に推移しています。適正な栽培管理を徹底しよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。きめ細かな栽培管理により高品質な花きの生産に努めよう！
- ◎ ほ場周辺の雑草は病害虫の発生源となるので、繁茂させないように除草・防草に努めよう！

○小麦

- 1 出穂期は5月8日から到達しており、平年に比べてネバリゴシが7～11日、キタカミコムギが6～9日早まっている。
- 2 うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生したら、直ちに薬剤散布を行う。
- 3 赤かび病の防除は、開花始めから開花期に1回目、その7日後に2回目の薬剤散布を行う。
- 4 湿害防止のため、ほ場の排水に努める。
- 5 本年は生育が早まっているため、登熟状況に注意し、適期収穫に備える。

○大豆

- 1 湿害による出芽不良を防ぐため、排水対策はしっかり行う。
- 2 土壌酸度は適正に保ち、有機物や土づくり肥料の施用により地力向上を図る。
- 3 出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるために、耕起・砕土は丁寧に行う。
- 4 は種は5月中旬から下旬を目安に行い、除草剤（土壌処理剤）をは種後速やかに散布する。

○にんにく

- 1 りん片分化期は、平年より1～5日早く到達した。生育は、平年を上回っており、順調である。

○ながいも

- 1 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植付ける。ただし、切いもの場合は、地温が低いと種いもの腐敗を招きやすいため、地温15℃以上を確保できる5月下旬～6月上旬に植付ける。
- 2 頂芽付小型1年子の早植え栽培（4月下旬～5月上旬植付け）の基肥は、萌芽期（萌芽が50%の頃）に、窒素成分で10a当たり6～10kg施用する。

○春夏にんじん

- 1 生育は、降雪の影響で、は種が遅れたため平年を下回っているが、順調である。
- 2 トンネル栽培では本葉5～6枚時まで、1本立てとする。高温障害を防ぐため、

生育ステージに合わせた温度管理を徹底し、6月上旬をめどに除覆する。追肥は、本葉5～6枚時に行う。

- 3 ベたがけ栽培では、本葉3～4枚時までには1本立てとする。除覆は本葉5～6枚時を目安とするが、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。追肥は、本葉3～4枚時と5～6枚時に行う。

○春だいこん

- 1 生育は、降雪の影響で、は種が遅れたため平年を下回っているが、順調である。
- 2 キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。
- 3 根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。

○ばれいしょ

- 1 萌芽期は平年より2日遅かった。草丈は平年を大幅に上回り、茎数は平年をかなり下回っているものの、生育は順調である。
- 2 1回目の中耕・培土は、草丈10cm頃を目安に行う。2回目は、着らい期に窒素成分で10a当たり4～5kg追肥してから行う。

○メロン

- 1 トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）では、定植作業が平年より6日早く行われ、定植後の生育は順調である。
- 2 トンネル内の温度は15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。
- 3 蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。また、天候不順の場合はホルモン処理を併用する。

○夏秋ギク

- 1 生育はおおむね順調で、病虫害の発生は見られない。
- 2 花芽分化の安定のため、温度は15℃以上、30℃以下を目標に管理する。
- 3 白さび病やアブラムシ類、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

○秋ギク

- 1 病虫害に侵されておらず、太さが揃い充実した苗を選択し、挿し芽を行う。
- 2 定植後は、日中の温度が25℃以上にならないように管理する。

○トルコギキョウ

- 1 春定植栽培の生育はおおむね順調であり、病虫害の発生は見られない。
- 2 老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。
- 3 生育の停滞やロゼットを防ぐため温度が25℃以上にならないように管理する。
- 4 病虫害の早期発見・早期防除に努める。

※農なび青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

- ◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～
- ◎農薬は適正に使用しましょう。
- ◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。
- ◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！
- ◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）
- ◎ツキノワグマ出没注意報発令中です（5月15日～11月30日）

☆青森県総合防除計画を策定しました☆

県では、植物防疫法に基づく国の「総合防除基本指針」に即して、化学農薬のみに頼らない病害虫防除を行うための計画「青森県総合防除計画」を定めました。農作物の高品質生産とコスト低減に向けて、みんなで総合防除に取り組みましょう。



<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 成田真樹 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076
報道監	農林水産部 次長 栗林豊 内線 4967